

厳寒期でも樹勢を落とさず多収穫！！

【厳寒期の施設栽培のポイント】

師走に入り、日本各地で荒れ模様の天候が続いています。
ボイラーなどによってハウス内の温度は確保されていても、土壌はなかなか温まりにくいものです。
地温が下がると根の活力が低下し、十分な養分を吸収することができません。
このように、厳寒期には様々な障害があり、対策を怠ると収穫時に大きな差となって現れます。
厳寒期にも安定した収穫を実現するためには、根の活力増強、消化効率の良い養分の補給、ボカシ肥による肥料切れ対策などが有効です。

【厳寒期の対策】

1. 根の活力増強

地温が下がると根の活力が低下し、十分な養分を吸収することができません。

低温で弱った根を回復させるためには、根圏の環境を整え、根が活動しやすい状態を作ってやる必要があります。

2. 消化効率のよいアミノ酸とボカシ肥で養分補給

低温時は根の活力が弱まるだけでなく、根からの養分吸収が滞り、生育不良に陥りやすくなります。このため、消化吸収効率の良いアミノ酸は、低地温時でも養分補給に最適です。

また、ボカシ肥を置肥として施肥することで、少ないカン水でも長期間に渡って養分供給を行うことができます。

低温時でも樹勢を維持し、安定して収穫するためには、アミノ酸主体のカン水施肥やカン注施肥を中心に考え、ボカシ肥とMリンPKの置肥を行って足りない分を補うという栽培管理が理想となります。

【果菜類の適地温および限界地温】

作物	地温 (°C)		
	最高限界	適温	最低限界
トマト	25	18~15	13
ナス	25	20~18	13
ピーマン	25	20~18	13
キュウリ	25	20~18	13
イチゴ	25	18~15	13

【施用例(10a当たり)】

☆低地温時の根の活性化

サンレッド・・・ 200～300ml (冬季中20～30日に1回施用)

本製品300mlの中に約3兆個もの光合成細菌を含んでいます。
光合成細菌は、土壤中の発根環境を整え、発根促進・根の活力活性などに効果があります。



☆低地温時は吸収・消化がスムーズなアミノ酸態チッ素で養分補給

- ① **アミビタゴールド** (※)・・・ 2～3kg + 利用中のチッ素入り肥料
(5～7日おきにカン水施肥)
- ② **アミビタゴールド**・・・ 20kgのカン注施肥 (植付株数×1/2×200～300ccの水で薄め、2株に1箇所の割合でカン注施肥)

消化吸収の良いアミノ酸液肥です。低地温で根が弱った時でも養分吸収がスムーズに行われ、作物の活力を取り戻します。また、アミノ酸に含まれる旨味成分によって作物の味を濃厚にする効果があります。



※①の代わりに、**アミビタA液肥**でも代用可能です。

【アミビタA液肥の作り方】

アミビタゴールド・・・20kg
サンレッド・・・200ml
尿素・・・0～20kg
水・・・100ℓ

これらの材料を混合して、2～3日熟成させてください (未熟な場合、ハウス内にアンモニアガスが発生する可能性があります)。

注) トマトやイチゴなど、糖度を要求する作物の場合では、尿素を0～10kgに減らしてください。

☆水を控える冬はボカシ肥で肥料切れ対策

MB動物有機・・・ 60kg (置肥) ※MリンPK類1袋との同時併用が効果的です。

動物性有機主体のボカシ肥です。じわじわと長期間に渡ってアミノ酸肥効が持続します。また、有機由来のミネラル分も補給することができ、低地温時の生育不良に効果があります。



※詳しいご質問は各代理店またはミズホ会本部まで